

CO・OPのあるところ、ほっと心が温まるたくさんのグッドニュースに満ちあふれています。その中から、えりすぐりの情報をお伝えします。なおこのコーナーでは皆さんからの情報提供をお待ちしています。

コープさっぽろ

道内初「バイオマスマーク認定」レジ袋を導入

コープさっぽろは、2015年7月から、環境にやさしい有料の「オリジナルレジ袋」を全109店舗で導入しました。

08年からレジ袋の有料化を開始。店舗にマイバッグなどを持参していただき、レジ袋の利用を辞退すると0.5円を基金に積み立て、植樹を行なうという環境活動を推進してきました。組合員の皆さんのご協力で、14年度の辞退率は89.5%という高い数字になっています。

そして今回、環境負荷の低減をさらに進めようと、環境配慮型のレジ袋を導入することにしました。サトウキビから精製された生物由来原料を混合したもので、従来のレジ袋のCO₂年間排出量約488tのうち、10%以上の52tを削減することができます。

このレジ袋は、一般社団法人日本有機資源協会が生物由来原料を活用していると認定する「バイオマスマーク」を、北海道内の流通業で初めて取得しました。

※ 有機性資源の総合的な有効利用の促進を図り、持続可能な循環型社会の構築と環境保全の推進に寄与することを目的としている協会。

コープさっぽろは今後も持続可能な循環型社会の形成のために、組合員の皆さんと一緒に「環境にやさしいお買物スタイル」の普及に取り組んでまいります。

報告：コープさっぽろ 経営企画室 マネジャー すずき あきほ 鈴木昭徳



新しく導入した「オリジナルレジ袋」。新しいレジ袋でも、マイバッグの持参を呼び掛けている。

広島県生協連

未来を担う若者が核なき世界をアピール!

2015年8月5日、広島県立総合体育館において、「子ども平和会議」を開催し、全国14生協の小学2年生から高校2年生までの53人の子どもたちが参加しました。「継承と創造」をテーマに、毎年8月に行なわれている生協の平和活動「ピースアクション in ヒロシマ」。被爆70年という節目の年にこれからの未来を担う子どもたちが継承者として平和を語り継ぐきっかけになればと、長崎県生協連と広島県生協連が企画しました。

子どもたちは、自分の住む地域の戦時中の話など事前に学習したことを各グループで交流しました。次に、広島平和文化センターの荒瀬〇〇課長(ルビ・名前確認します)から世界に対する平和への取り組みや核兵器についての話を聞き、グループごとに「核兵器や争いごとをなくすために私たちができること」を考えました。

子どもたちからは、「戦争は、自分たちにとって大切な家族・友達・夢・希望・楽しみなど、当たり前の幸せを奪っ

てしまうもの」「正しいことを知って伝えることが大切」など、さまざまな意見が出ました。これらを踏まえ、子ども平和会議では「二度と同じ過ちを繰り返さないため、話し合いをしたり、周りの人に伝えたりすることで平和への思いを訴え続け、核兵器のない平和な世界を創っていきます」というアピール文を採択しました。

報告：広島県生協連 事務局 ためまさけい こ 為政圭子



全国の子どもたちが平和への思いを共有しました。